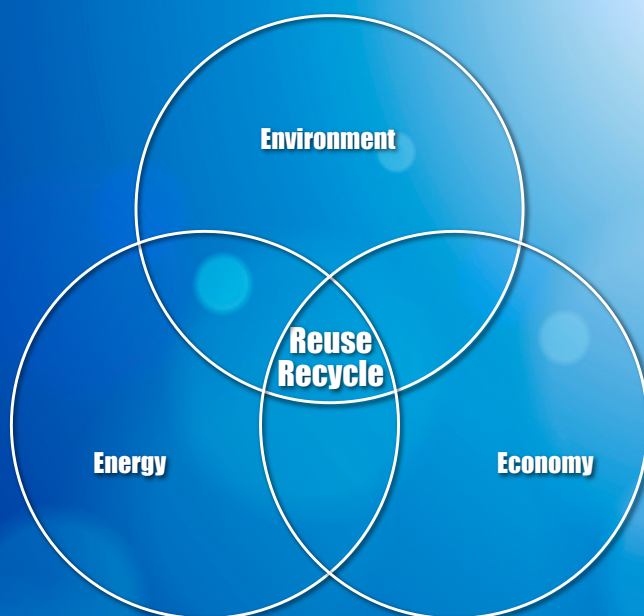
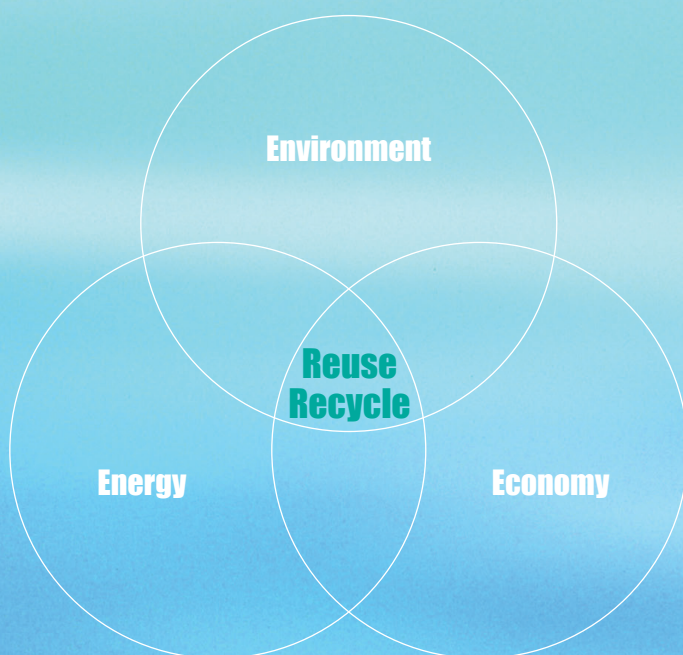


環境報告書 2024





ごあいさつ

気候変動に関する国連枠組み条約(UNFCCC)の第28回締約国会議(COP28)は、UAEのドバイで2023年11月30日から12月13日に開催されました。

COP28では、2023年のCOP27で設立が決定していた気候変動の悪影響による損失と損害に対応するための基金について会期初日に運用開始の合意が発表されました。また最大の成果は1.5℃目標の実現に向かうためのエネルギーに関する合意ができたことです。なおパリ協定で定めた各目標に対する進捗状況についても5年ごとに包括的な評価を行う「グローバル・ストックテイク(GST)」の第1回が実施され、決定文書でパリ協定の目標達成に向けた新たな目標や脱炭素貢献技術に関する取り組みの推進が呼びかけられました。今日世界経済(Economy)においては、地球が迫る新たな競争の中で最も重要な力は「環境力」と言われています。特に欧州連合では「経済発展のあり方を変え世界的な環境革命を起こし企業を競わせ環境分野で競争力を高める」という明確な方向感が出ているそうです。

私はこの「環境力」「環境革命」という新しい言葉に強い感銘をうけております。

世界経済は産業革命から200年、IT革命から20年を経て21世紀は名実共に環境革命の世紀に入ったとの思いを強く致しました。企業も機械化による生産力、技術力、IT力から近い将来、環境保護を通して企業の競争力を高める「環境力」によって社会的に評価されることが予測されます。

そこで、地球環境(Environment)のために今私たちが出来ることに3つのR(Reduce、Reuse、Recycle)が強く取り上げられています。廃棄物を減らし資源循環型社会をつくることにより環境負荷を軽減させる取り組みであります。この「3R」に真正面から向き合い、建前に終わらせない資源循環型社会作りは我々にとって必須の経営課題であります。

我々は、産業界に身を置く地球人として、子孫のためにこの美しい地球環境をこれ以上悪化させてはいけません。弊社は電子写真の材料・技術・サービスを通じて高度情報化社会の発展に貢献することを大きな社会的使命とすると同時にトナーカートリッジのリユースリサイクル事業を通じ資源循環型社会作りに貢献でき、地球環境との調和の図れる企業を目指すことをもう一つの大きな社会的使命と認識し環境マネジメント(ISO14001)の活動に継続して取り組んでおります。

本年も、その活動の成果の一端として(株)アイメックス「環境報告書2024」を作成いたしました。ご一読いただければ幸いです。

2024年6月27日

株式会社 アイメックス
代表取締役社長 北岡 雄一郎

品質環境方針

経営理念(基本理念)

(株)アイメックスは電子写真の技術・材料・サービスを高い技術力と絶えざる向上心を背景に、以下に掲げる理念を忘れず、グローバルな顧客から高い満足と信頼を獲得する。

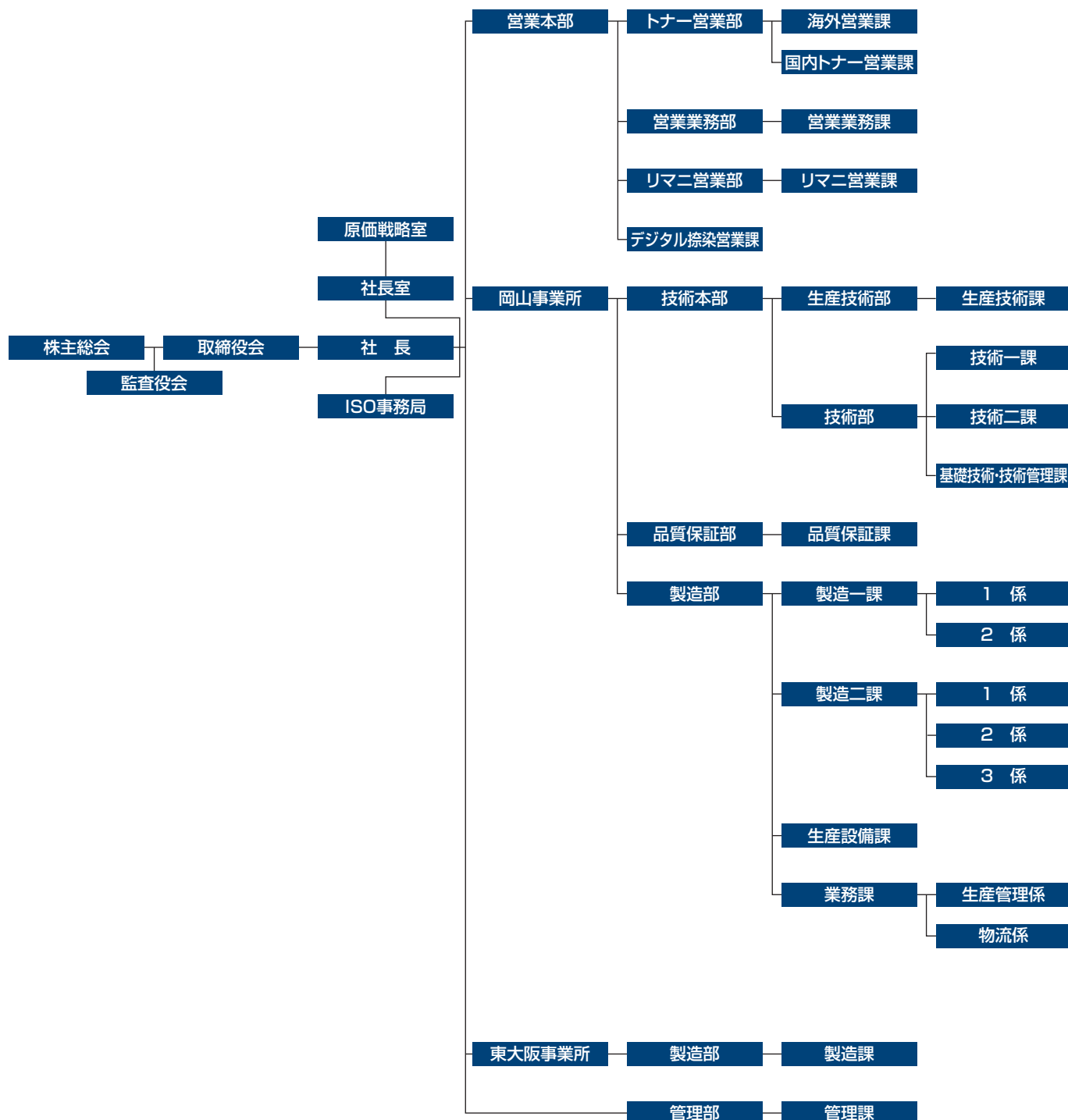
- (1) 高度情報化社会への貢献
- (2) 地球環境との調和
- (3) 絶えざる経営の革新
- (4) 革新的な考え方と行動力
- (5) 人の輪の尊重とやりがいのある職場づくり

品質環境方針

1. 環境関連の法規制及び当社が認めるその他要求事項を遵守し、自主管理基準を設けて環境管理の向上に努めます。
2. 品質環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を実行しつつ、環境に対する汚染を予防します。
具体的には次のことを実行します。
 - 省エネルギー・リサイクルの推進
 - 環境汚染物質と廃棄物の削減
 - リユースリサイクル業界向けの環境にやさしい高品質トナーの提供
3. 高品質リサイクルカートリッジの提供によるリサイクルカートリッジ事業の拡大とリユースリサイクルの一層の推進。
4. 本方針を含めた品質環境マネジメントシステムは、その実施の結果を常にフィードバックし、1年に1回見直しを行い、その継続的改善を図る。
5. E&Qマークの規格要求事項を遵守する。
6. 本方針は全従業員に周知徹底するとともに、求めに応じて対外的にも公表する。

品質環境マネジメント組織

2024年4月1日 現在



SDGSと当社の取り組みについて



SDGS(Sustainable Development Goals)とは

2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGSは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり日本としても積極的に取り組んでいます。

アイメックスのSDGSへの取り組み

アイメックスはトナーおよびリサイクルカートリッジの開発・製造・販売を通じて持続可能でよりよい社会を目指す目的に貢献しています。

リサイクルカートリッジや低温定着トナーによるCO2削減、各国・地域の環境規制に対応することによる健康への配慮をはじめとして以下の重点項目に積極的に取り組んでいます。

《アイメックスが目指す主な持続可能な開発目標》

【持続可能な社会への貢献】



印刷物を通じて識字率を向上させ
貧困からの脱却を目指します。



印刷物を通じて質の高い教育に
貢献することを目指します。

【脱炭素社会の実現】



リサイクルカートリッジ、
低温定着トナー等の開発により
エネルギー問題の解決を目指します。



CO2削減の努力を続けることにより
気候変動およびその影響力を
軽減することを目指します。

【循環型社会の実現】



リサイクルカートリッジ、
市場から回収されたトナーを再利用したハイブリッドトナーの開発 etc による
循環型社会の実現を目指します。

【製品の安全性】



材料メーカー（パートナー）と各国・地域の環境規制を遵守する
材料の開発/調達を実現し、その材料でのトナー開発商品化により
健康社会/地球環境保護を目指します。

環境対応活動の内容及び成果



① 2023年度アイメックス事業活動の環境貢献(負荷)

2023年度は、カートリッジ売上本数が約6.3万本(前期比26%減)となりました。

その結果、CO₂ 排出量に換算すると約214tの削減に寄与したと算定されます。(※1)

一方、リユースカートリッジの生産においても、エネルギーを消費し、廃棄物を排出します。

2023年度の岡山事業所の生産活動におけるCO₂排出量は11,106tとなり、産業廃棄物は268tとなりました。

今後もこれらの環境負荷について定量的な管理を進めることにより、積極的に削減を行ってまいります。

今後のトナー生産におけるCO₂削減方針は下記の通りです。

- 1.生産効率を上げる省エネ機器の積極導入によるトナー生産1kgあたりの消費電力の削減
- 2.太陽光パネルの設立などの再生可能エネルギーの積極活用
- 3.産業廃棄物として指定されているトナーの再利用

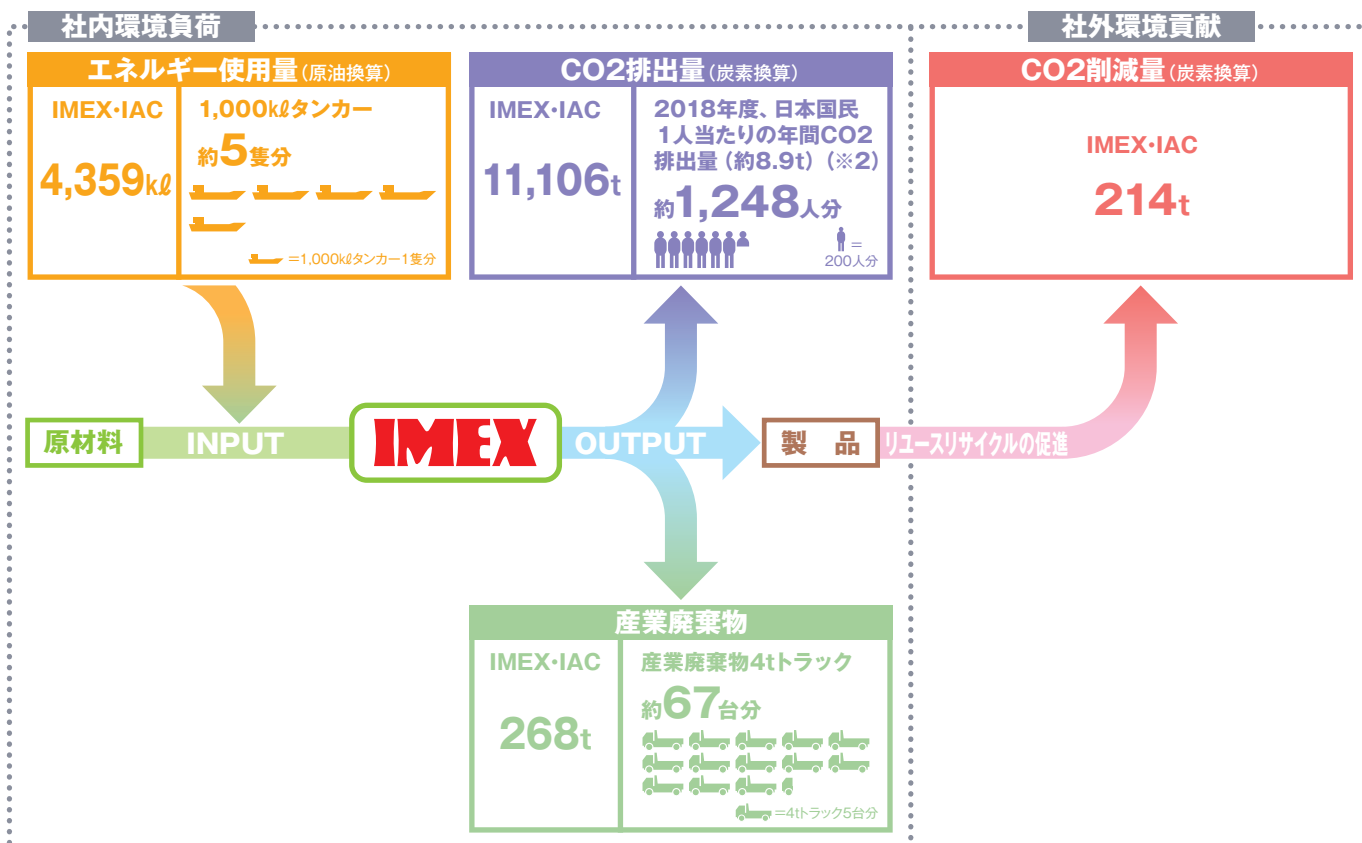
(※1) リサイクルトナーカートリッジ1本のリユースにつき、CO₂排出量を約3.4kg削減することができます。

(日本カートリッジリサイクル工業会 ファクトブック 2017年7月版 に基づく)

(※2) 環境省発表2018年度温室効果ガス排出量に基づく。

また使用済みカートリッジの回収トナー(廃棄トナー)と当社オリジナル母体配合トナーの組み合わせでハイブリッドトナーを御提供しております。廃棄トナーを原料の一部として使用することにより、資源の有効活用並びに循環型社会の実現に貢献しております。

[2023年度アイメックス事業活動の環境貢献及び負荷(概要図)]

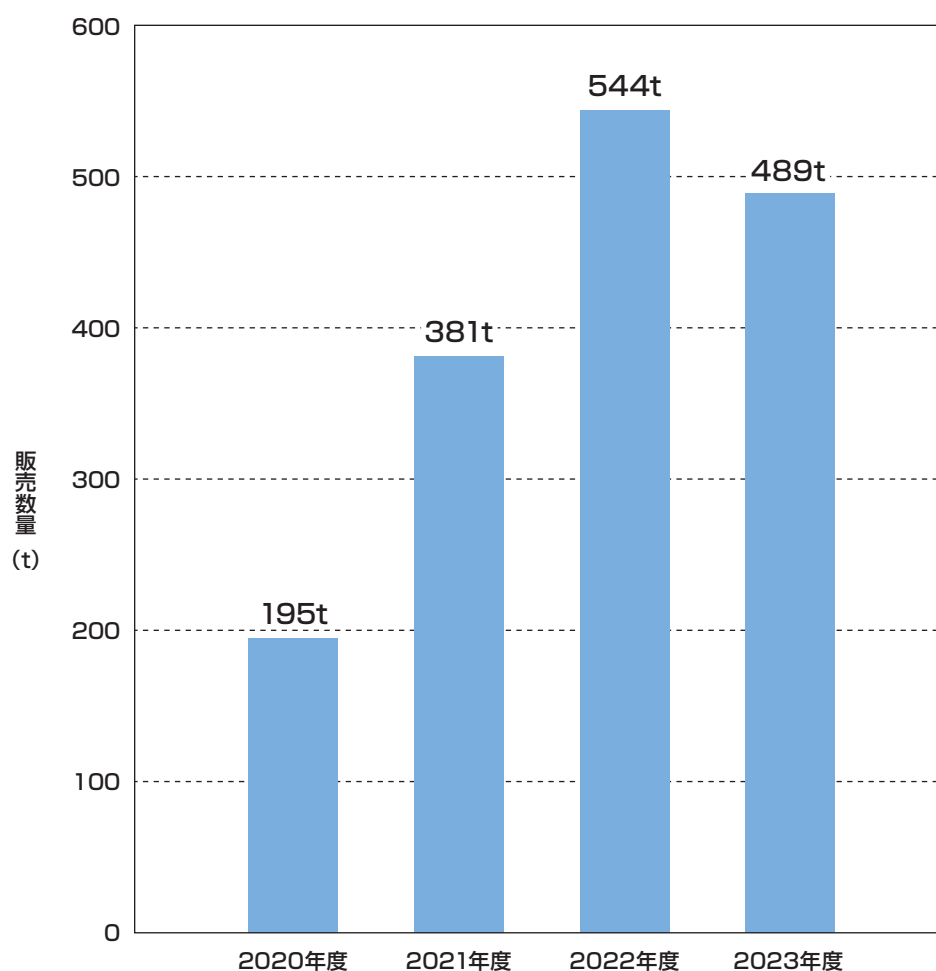


環境対応活動の内容及び成果

② 低温定着トナーの開発

オフィスに広く普及しているレーザープリンター、複写機、複合機(以下プリンター)について、主要プリンターメーカーはエネルギーの消費効率を高める技術開発に積極的に取り組んでいます。プリンターでは、トナーを紙に定着する工程が最も電力を消費する工程であり、全消費電力の60～80%を占めます。これはトナーを瞬時に高温で溶かして定着させるために、大量の昇温エネルギーが必要になるからです。当社は、エネルギーの消費量を抑えることを目的としたプリンターに対応した低温定着トナーの開発に取り組み、2014年から販売を開始しております。この低温定着トナーは、従来のトナーより低い温度で溶けるので、昇温のための電力を節約することができます。2023年度では低温定着トナーを11品種、約489ton(前年度比約90%)を販売いたしました。低温定着技術はトナー製品全般に応用することが可能で、今後、より多くの低温定着トナーを製品化し、環境に貢献していきたいと考えております。

低温定着トナー 販売数量



環境対応活動の内容及び成果

③ カーボンオフセット付きリユースカートリッジの販売

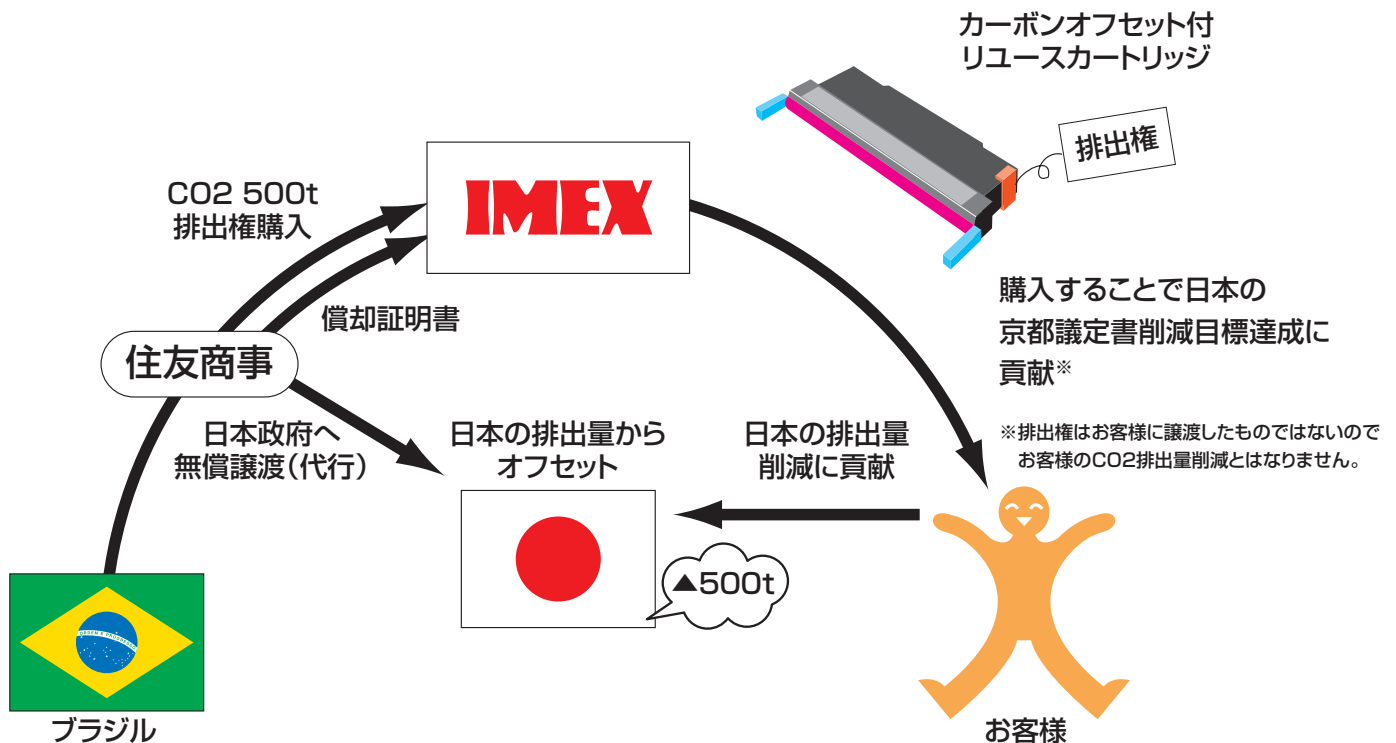
カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、他の場所で行われる温室効果ガスの削減事業に資金援助や技術支援することで得られたCO₂排出削減量（排出権）で、自ら排出した温室効果ガスを相殺（オフセット）するという考え方です。

アイメックスが販売するカーボンオフセット付きリユースカートリッジは、カートリッジを使用した際に、プリンターが消費する電力量に相当するCO₂排出量をオフセットすることを付与した商品で、1本あたり平均約1.6kgのCO₂排出量の削減に貢献します。

また、オフセットに用いる排出権は、アイメックスが商社を通じ、ブラジルでのCDMプロジェクト（※1）から発行されたCER（※2）500t分です。これを日本政府の償却口座に無償で譲渡することで、日本の京都議定書でのマイナス6%という削減目標に貢献いたしました。カーボンオフセット付きリユースカートリッジを購入されたお客様には、日本の京都議定書削減目標達成にご協力いただいたことになります。

※1 CDM (Clean Development Mechanism) プロジェクトとは、先進国が資金や技術を支援することで、途上国が実施する温室効果ガス削減プロジェクトのことで、国連による厳格な審査を受けなければなりません。

※2 CER (Certified Emission Reduction) とは、国連により審査・認証済みの排出権で、途上国の経済成長とCO₂排出量の削減に貢献する排出権です。



環境対応活動の内容及び成果

2023年度のカーボンオフセット付きリユースカートリッジの販売総数は189本でした。

これらを購入されたお客様には、302kgのCO2排出量削減にご協力いただいたことになります。

今後もより多くのカーボンオフセット付きリユースカートリッジをお使いいただくことで、多くの方々に日本のCO2削減目標達成のサポートをしていただけるよう努力してまいります。

カーボンオフセット付きカートリッジ 販売実績

互換製品	対応機種	2023年度実績
EP-66互換	LBP-3700/3800	
カートリッジ326互換	LBP-6240/6230/6200	2本
カートリッジ328互換	MF4580dn/4570dn/4550d/4430他	29本
LB314A/B互換	XL-6200	
LB315A/B互換	XL-5370/5770	
LB317A/B互換	XL-9280/9310	
LB318A/B互換	XL-9380/9440/9380E/9440E	
LPCA3ETC5C/M/Y/K互換	LP-7000/9000/9200他	
LPCA3T12C/M/Y/K互換	LP-S5000	
PR-L2300-11/12互換	Multiwriter 2100/2300/210s	
PR-L2800-11/12互換	Multiwriter 2800/2850/2860	
PR-L3300-11/12互換	Multiwriter 3300N	
PR-L8500-11/12 互換	Multiwriter 8500N/8400N/8200N	26本
PR-L9100C-11/12/13/14 互換	Color MultiWriter 9100C	
SP6100H互換	IPSIO SP6100/6120/6110他	3本
カートリッジ316C/M/Y/K互換	LBP-5050/5050N	
カートリッジ318C/M/Y/K互換	LBP-7200C/7200CN/7600C	
カートリッジ322C/M/Y/K互換	LBP-9100C/9500C/9600C	
カートリッジ322II C/M/Y/K 互換	LBP-9100C/9500C/9600C	
カートリッジ509互換	LBP-3500/3700/3800他	16本
カートリッジ510II互換	LBP-3410	7本
トナーカートリッジ502 C/M/Y/K互換	LBP-5600/5610/5900/5910	106本
他		0本

合計	189本
カートリッジ売上総数	62,967本
カーボン率	0.3%
CO2 削減量	302KG
1本あたりのCO2削減量	約 1.6KG



カーボンオフセット製品ロゴ

環境対応活動の内容及び成果

④ E&Q マーク取得

E&Q マークとは

リサイクルトナーカートリッジを皆様に安心してご利用いただくために日本カートリッジリサイクル工業会(AJCR)が制定した「環境と品質」の管理基準です。

第三者審査機関の審査により、環境管理基準は6テーマ29項目、品質管理基準は4テーマ10項目をクリアし認定されたAJCR会員企業だけがリサイクルトナーカートリッジの梱包箱に「E&Qマーク」ラベルを貼付しています。

マーク右上のNO.はトナーカートリッジ固有の管理番号で、納品後製造元を確認することができます。

E&Qマーク制度の目的

- AJCR会員が準拠すべき環境及び品質管理基準を定め、常に高品質の再生トナーカートリッジを消費者に提供する基盤を明確にする。
- 模倣品と差別化することによって、再生トナーカートリッジの品質について消費者の高い信頼を確立・維持する。



環境対応活動の内容及び成果



⑤ 環境ラベル・環境規制への対応

世界的に環境保護が叫ばれるなか、海外市場にも多く製品を提供しているIMEXは、国際社会の一員として、自社製品について環境責任を負っています。

そのためIMEXは、世界各地域の環境規制の遵守に努めており、特に化学物質の規制が厳しいとされるEUの規制（CLP, REACH, RoHSなど）を中心に国内外の規制に対して取り組んでおります。

2022年度にはCLPにおいて、トナーの流れやすさや帯電調整に最も有効であった酸化チタンの規制が始まりました。IMEXは早くからこの規制への対応に取り掛かり、現在では酸化チタンレス若しくは配合量を基準未満に抑えた処方で全製品を設計しています。

今後も開発設計段階から、規制並びに環境ラベルの要件を満たしながら、積極的な環境ラベル取得のために、求められる基準をクリアする人体や環境に安全な製品の提供に努めていきます。

IMEXトナー製品は、以下のような環境ラベル・環境規制に対応しています。

CLP (Regulation on Classification Labelling and Packaging of substances and mixtures; 1272/2008/EC)
化学物質や混合物の危険情報伝達を目的としたGHSを基に作成された規則



《ブルーエンジェル》

ドイツの環境ラベルで、1978年に世界初の環境ラベルとして創設。製品に起因する環境負荷を抑制することを目的に実施されているエコラベル制度。

※カートリッジでの取得となるため、取得必要条件のうちトナーに関する基準に対応している。



《ノルディック・スワン》

北欧5ヶ国（ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、アイスランド）間で制定された、多国間共通環境ラベル。製品の環境負荷が他の同様に比べ少なく、環境保全効果の大きなものが取得できる。

※カートリッジでの取得となるため、取得必要条件のうちトナーに関する基準に対応している。

RoHS

《RoHS指令》

EU 15ヶ国内で電気器具等に含まれる鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ビフェニール（PPB）、ポリ臭化ディビフェニール（PBDE）、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル（DEHP）・フタル酸ブチルベンジル（BBP）・フタル酸ジ-n-ブチル（DBP）・フタル酸ジイソブチル（DIBP）10物質の使用を禁止する指令。

《EU理事会指令に基づく環境物質表示》

EU理事会指令は、多数の化学物質に対して危険物質の分類・表示方法を定めている。物質の名称、輸入／製造業者情報の他に、分類別にシンボルマークを設定し、注意を促す安全語句の表記も義務付けている。

環境対応活動の内容及び成果

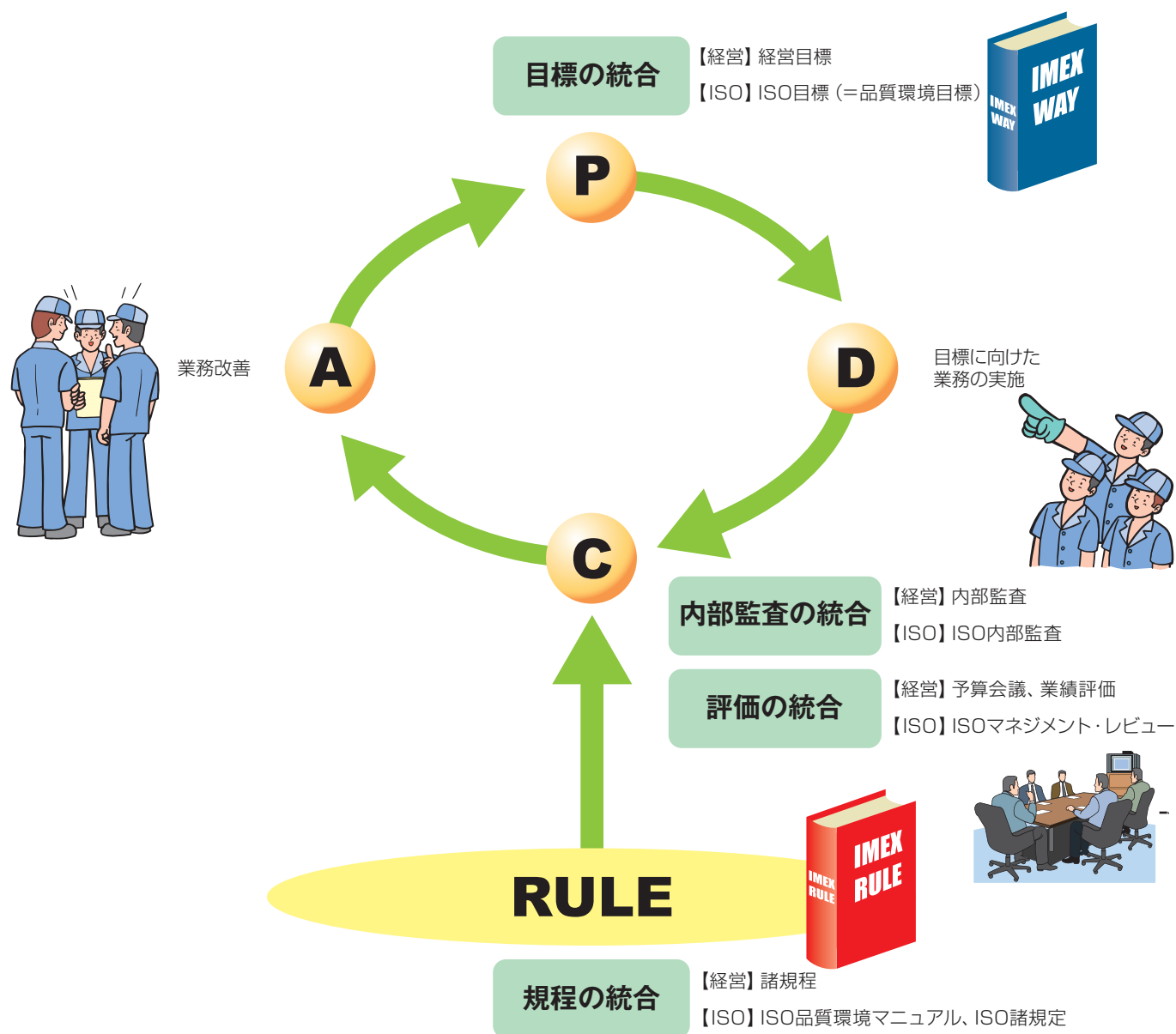
⑥ 経営管理とISOの統合

IMEXは、リユースリサイクル事業に携わる環境貢献企業として、「環境を経営に織り込む」ことに取り組んでいます。管理部門およびISO事務局では、経営管理とISOの一体化を推進しています。

これまでの取り組みとして、ISO上の品質環境目標と経営上の年度予算目標の一体化、各種ISO規定と会社諸規程の統合、ISO内部監査と内部監査の一体化、評価の統合を行いました。（下図参照）

これにより、環境に関する目標が明確に各部門・各業務に伝わるとともに、重複した文書・業務の削減を着実に実行しています。

IMEXは環境貢献企業として社内外へ積極的に説明責任を果たしていくとともに、社員一人ひとりが環境意識をもって行動する企業として努力してまいります。



環境保全活動の歩み

2001年度	ISO事務局設置
2002年度	ISO9001、ISO14001を全社同時取得
2003年度	ノンVOC製品の販売
2005年度	ISO9001とISO14001の統合
2006年度	リユースカートリッジのエコマーク取得(19製品9品種取得) 「IMEX環境報告書2006」作成 残トナーの再利用技術開発(「ハイブリッド・トナー」) 廃棄カートリッジの分別処理開始
2007年度	ハイブリッド・トナー製品の販売(国内) 「IMEX環境報告書2007」作成
2008年度	カーボンオフセット付きリユースカートリッジの販売(国内) 「IMEX環境報告書2008」作成
2009年度	「IMEX環境報告書2009」作成
2010年度	「IMEX環境報告書2010」作成
2011年度	「IMEX環境報告書2011」作成 E&Qマークを取得
2012年度	「IMEX環境報告書2012」作成
2013年度	「IMEX環境報告書2013」作成
2014年度	「IMEX環境報告書2014」作成 低温定着トナーの開発
2015年度	「IMEX環境報告書2015」作成
2016年度	「IMEX環境報告書2016」作成
2017年度	「IMEX環境報告書2017」作成
2018年度	「IMEX環境報告書2018」作成
2019年度	「IMEX環境報告書2019」作成
2020年度	「IMEX環境報告書2020」作成
2021年度	「IMEX環境報告書2021」作成
2022年度	「IMEX環境報告書2022」作成
2023年度	「IMEX環境報告書2023」作成
2024年度	「IMEX環境報告書2024」作成





IMEX

株式会社 アイメックス

お問い合わせ先

株式会社アイメックス 管理部

TEL 0463-23-0591 FAX 0463-23-5658

当社に関する情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.imex-net.co.jp>